キャラクター名
森霖 碧-ｼﾝﾘﾝ・ﾐﾄﾞﾘ-

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ ハヌマーン	ワークス	UGN支部長B	カヴァー	小学生
オプショナル		年齢	11歳	性別	女性
覚醒	生誕	衝動	破壊	初期侵食率	33 %
出自	親の理解	経験	秘密	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	4	1	0			5
精神	2	0	0			2
社会	1	0	0			1

HP	24
行動値	12
(非装備時)	12
戦闘移動	17
全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ	13		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：レネゲイド	1		情報：UGN	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
エメラルドルピナス	ＲＣ	5r+13		10		(ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ:ﾊﾇﾏｰﾝ)+(光の手)+(振動球)+(滅びの光)+(レーザーファン)、装甲無視、範囲(選択)、侵食値17
ヨルザキアラセイトウ	ＲＣ	5r+13		34		(ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ:ﾊﾇﾏｰﾝ)+(光の手)+(振動球)+(滅びの光)+(レーザーファン)(マスヴィジョン)、装甲無視、範囲(選択)、侵食値17

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ:UGN幹部	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス:奇妙な隣人	P	N		
両親	P 感服	N 食傷		
玉野 椿	P 尊敬	N 疎外感		
アルベリヒ	P 傾倒	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ:ﾊﾇﾏｰﾝ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-LV							
光の手	1	2	メジャー	視界	-	-	-	
効果：	感覚で判定できる							
振動球	1	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果：	攻撃力+LV、射功、装甲無視							
滅びの光	3	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果：	攻撃力+[LVx3]、単体無効							
レーザーファン	2	3	メジャー	-	範囲(選択)	対決	-	
効果：	対象を範囲(選択)に、シナリオLV回							
マスヴィジョン	3	4	メジャー	-	-	対決	100%	
効果：	攻撃力+[LVx5]、シナリオ3回							
オリジン:ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：	シーン間、判定達成値+LV							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「ねぇ……今度の任務、成功するかな……。 うん、大丈夫だよね。 みんな頑張ってくれている。 私も頑張らないと……」

――走馬灯が走った。
流れ出る記憶、溢れる想い出。死ぬ直前、人はこんなものを見るという。
私の視界は、一瞬でそれに満たされた。

ああ、幼い私がいる。両親がそれを微笑みながら見つめる、家族団欒の光景だ。
父はオーヴァード、母もオーヴァード……。私は生まれながらにしてオーヴァードだった。
その生誕は両親ともに喜ばれ、私はUGNで育てられた。様々な英才教育を施され、誰よりも厳しい訓練をした。
努力の甲斐あってか、才能の開花か……私は物心ついた頃には既に力を自在に操れた。
両親の期待は高まる。私は、私は……怖かった。嫌だった。
逃げ場なんか無い。そんな訓練と勉強とプレッシャーの地獄の中で、私は育った。

いつ頃だっただろうか。私は……“彼”を見るようになった。
“彼”は……私だった。男の子になった私……まさにそんな感じの奴。
普段は無口だけど、辛いとき、悲しいときは傍にいてくれた。
私は彼を翠と呼ぶ。翠は私と同じように育っていき、声をかけてくれる。
でも、彼は私にしか見えない。
調べてみると、“イマジナリーフレンド”というらしい。子供が寂しさを紛らわす為に呼び起こす幻想の友達。
しかし、私には分かる。彼はそんな精神学的な存在ではない。
アレはレネゲイドビーイングだ。私の精神に巣喰う人ならざるもの。